



コロナ禍の 特別支援教育

ニューヨークからの報告

バーンズ 亀山 静子

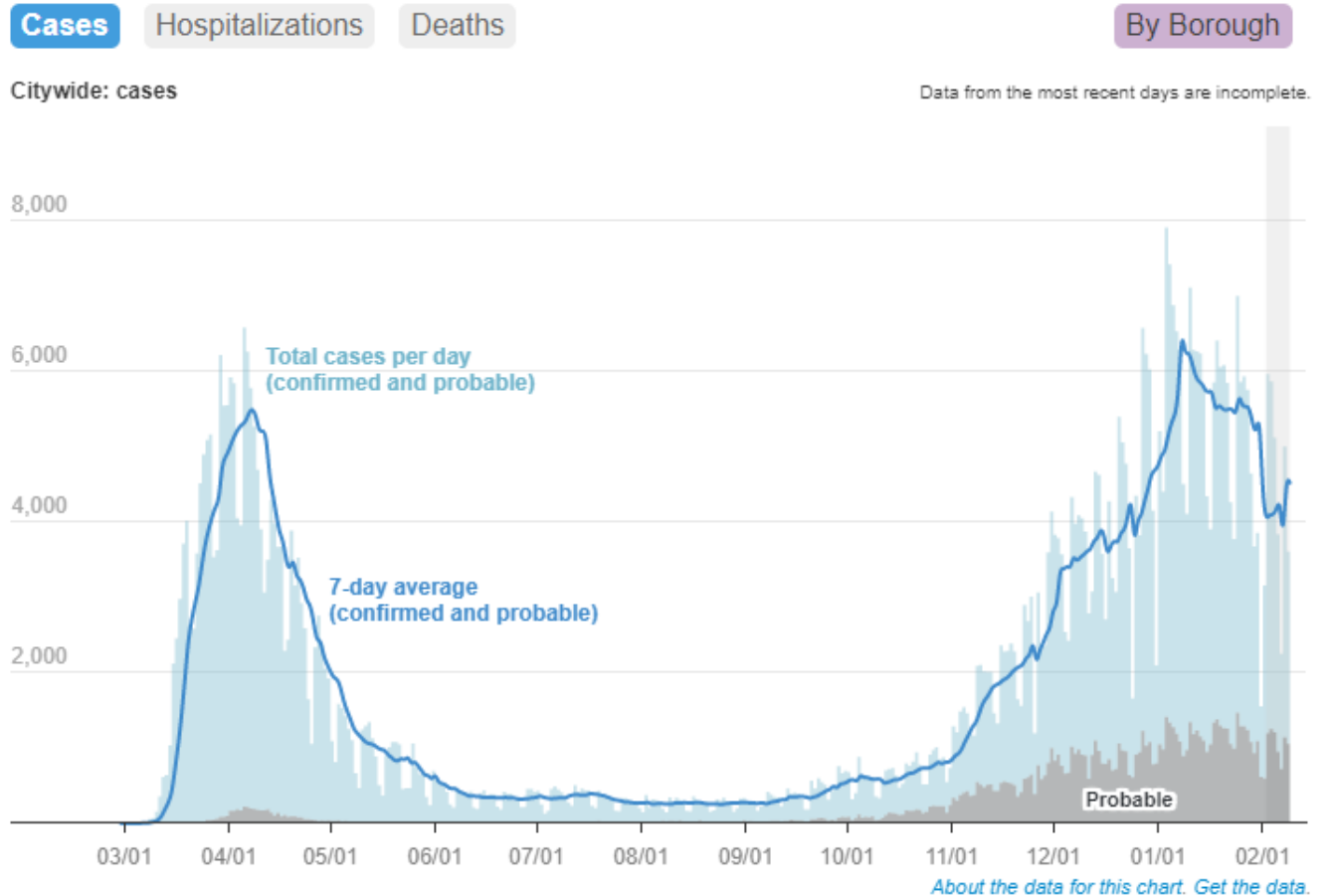
今日の流れ

- 1) ニューヨークの状況
- 2) 日々の学校教育がどうシフトしたか
- 3) 特別支援教育で何が起こったか
- 4) 教師へのサポート
- 5) 今後のこと



ニューヨークの状況

- 3月初めにNY最初のケース・・・あっという間に感染拡大
- 3月半ばには学校校舎の閉鎖、授業はオンラインへ
- 3月22日州全体がロックダウン
- 今では郵便番号ごとの統計で対応
- 国内でも他の州から来たら検査義務。結果によって10日間の自粛。
- 11月からの第2波が1月初めを境に減少傾向
- 優先順位をつけて12月よりワクチン接種開始



リモート（遠隔）授業へのシフト

<背景>

- ★もともと対面授業でもデバイスをよく使っていた
- ★G Suite for Educationのアカウントを持っていた

<アクション> ロックダウン後1週間以内

- ★必要な児童生徒一人一人にデバイスを貸し出し
- ★教員へのリモート授業に関する研修

<9月以降>

- ★「ブレンデッド（対面＋リモート）」か「遠隔のみ」か選択

アメリカの学校における3月という時期



- 4～6月はたくさんの試験のある時期
 - 州の学力検査
 - 高校卒業認定試験
 - 外国語話者の英語能力試験
 - 大学の単位同等試験
- 公教育に課せられた法的義務
 - ESSA (Every Student Succeed Act)
 - IDEA (全障害者教育法)

遠隔授業の形式

3～6月

- 朝の会（リアルタイム）
- 課題が出され、それを自分でやってGoogle Classroom等で提出する
- 質問タイム（教師がオンラインで待機）

学校閉めた時点では数週間のつもりだった

9月以降

- リアルタイム授業が増える
- 児童生徒への要求度が増す
- AIを使った個々に合わせて学習を進められるプログラムの導入
- 対面も部分的に開始

「緊急措置」から「新しい措置」へ。評価もする必要が出てきた。



New York State
EDUCATION DEPARTMENT

Knowledge > Skill > Opportunity



**RECOVERING, REBUILDING, AND RENEWING:
THE SPIRIT OF NEW YORK'S SCHOOLS**
REOPENING GUIDANCE

ニューヨーク州の教育局
から出された
145ページからなる
学校再開のガイドライン

<http://www.nysed.gov/common/nysed/files/programs/re-opening-schools/nys-p12-school-reopening-guidance.pdf>

パンデミックが学校教育にもたらしたものの



- ・子どもの学習に関して保護者の理解の促進（親子の時間の回復）
- ・テクノロジー能力の伸び
- ・新たな学習の在り方の発見
- ・新たな指導の在り方の発見

- ・友だちに会えない（つながりの希薄化）
- ・試験・評価の中止（伸びの測定不能）
- ・教師のデジタル能力による差
- ・オンライン疲れ
- ・やる気の低下・鬱の増加
- ・親子喧嘩の増加

特別支援教育における3月という時期



- 4～6月は学年末。来年度に向けてIEP見直し会議がたくさんある時期
 - リモート会議で解決
- 来年度に向けて支援を確保するために新規ケースが増える時期
 - アセスメントができずに「実施できるようになるまで」持ち越し

特別支援教育サービスは・・・

Current Skill-Based Performance

Skill	Level of Support Needed	Recommended Strategies and Interventions
Listening		
Speaking		
Writing		
Reading		
Math		
Behavioral		

Remote Special Education and Related Services

Program / Service (specify group size)	Language	Minutes per session	Sessions per week

- 法的パワーを持つIEP

- 何らかの形で支援サービスは保障しなくてはならない

- リモート学習プランの作成

- <https://www.uft.org/sites/default/files/attachments/covid-19-special-ed-plan.pdf>

特別支援教育サービスは・・・

個別や小グループ指導もオンラインで対応



特別支援の指導（教科のスキル、学習のために必要なスキル等）、言語療法、作業療法、理学療法、カウンセリング、トレーニング各種（ソーシャルスキル等）



しかし、家庭での協力を頼らざるを得なくなる

遠隔授業をやってみて

プラス面

- 新しい状況の新奇性が興味をそそってモチベーションが上昇
- 対人に気を使わなくてよいため、不安感の減少や集中に好影響
- 家にいる時間、家族と接する時間の増加
- 学校に物理的に行かずに授業に参加できる
- 自分の学びの舵取りができる

マイナス面

- 家庭の負担増加
- 親から勉強を教わることを受け入れられない（役割）
- 社会的孤立による行動や情動の問題の悪化
- 集中持続が困難
- リモートでは必要なフィードバックが得られないための混乱

特別支援教育サービスは・・・



- オンラインでは学習的ロスが大きすぎることから、夏のプログラムから対面による指導が特別に許可される。
- 夏のプログラムは、2か月以上にわたる夏休みは長すぎて、学んだことを失ってしまう可能性のある児童生徒に提供されている。（12か月教育）

対面授業になる優先順位

1) 特別支援教育対象の児童生徒

2) Pre-K (3-4歳)

3) 小学生

4) 中学生

(NYCでは、11月の感染拡大以降リモートのみだったのが、2月25日から対面再開)

5) 高校生

(NYCでは依然としてリモートのみ)

ブレンデッドは週に2-3日の対面だが、
IEPのある児童生徒だと毎日登校できる

移行支援サービスは・・・



CDOS
(Career Development and Occupational Studies)
キャリア開発と職能学習

ニューヨーク州の移行支援CDOS

- 職場でのシャドーイングやインターンシップは中止
- オンラインで職場の人から話を聞いたり、手ほどきを受ける
- ニューヨーク市では給料まで支払われるプログラムもある (TOP-Training Opportunities Program)

教師サポートは・・・

- リアルタイム、オンデマンドでの研修やリソースをさまざま提供
 - 遠隔授業のためのリソース
 - 指導のためのリソース
 - 家庭との連携のためのリソース
 - サポート体制の構築（例：Virtual Contents Specialist）
 - 教師のメンタルヘルスサポート

あくまでも子どもたちが成功することをゴールとしたサポート

ニューヨーク州の教員免許維持には、
5年間で175時間の研修が必須。



今後の学校 今後の学び方

- 学習者が自分で学びやすさを見つけて学ぶ。(UDL)
- 指導者はゴールを見据えて、学習者がそのゴールを達成できるように支援することが「指導」の本質になる。
- 「柔軟性」「クリエイティビティ」「新ノーマル」